

「小数」

1 提案の主張点

本単元では、「はしたの部分の表し方を考える」こと、既習の表記の仕方と小数での表記の仕方をつなげて考えることが、数学的な考え方を養う内容だととらえた。

しかし、「1 mと少し」という長さの場合、既習のセンチメートル (cm) やミリメートル (mm) を使って表すことができるので、子どもは小数の必要を感じない。そこで、長さの場合は「メートルダケッチョ国」(メートルしか使えない仮想の国) へ、かさの場合は「リットルダケッチョ国」(リットルしか使えない仮想の国) へ行くという設定で、学習を行った。

小数を使って長さやかさを表す学習をした後、小数の表し方と今までに習った単位での表し方をつないで考えた。そこで、両方の表し方を示しているものさしを作る活動を行い、習熟を図るようにした。その際、「日本のものさし(既習の単位を使った表し方)とメートルダケッチョ国のものさし(小数を使った表し方)を比べてみよう」という学習課題を設定した。

また高松支部の研究主題である「算数的な表現力を育てる支援・援助活動の工夫」を実践するために、習熟度に応じたグループを作って学習を行った。ステップコース(既習事項が十分でない子どものコース)では、具体的な操作を通して自分の考えを表すよう支援をし、ジャンプコース(単位の考えや十進法の意味がおおむねできている子どものコース)では、図や数直線や式などを使って自分の考えを表すよう支援をした。学び合いを大切にするために、発表の話型を掲示していた。

「リットルだけしか使えない国」という課題設定によって、10等分した目盛りの必要性を子どもが自然に考えることができたのが、成果であった。

2 提案に対する意見

「1 mと少し」の長さの「少し」の部分を表すのに、子どもから分数的な考え方は出てこなかったのだろうか。

また、本単元に入る前の子どもの実態やコース分けの方法について知りたい。

3 御指導

この実践では、学習環境が整えられていた。子どもに学ぶ力が身に付く実践である。「□m□cmを小数で表そう」という活動は、理解はできるが、子どもに力がつかない。

子どもが量感をとらえるためには、実測が必要である。そして実測した値を小数で表すことが大切である。小数で表す方法と、既習の単位で表す方法をいたりきたりさせたい。また、身の回りには小数で表しているものがたくさんあるので、それらを見つけることもできる。

子どもにとっては、自分の考えをワークシートにかくことが一番表現しやすいだろう。「算数的な表現力を育てる」ために、子どもが目的意識や意欲を持って表現できるよう、支援をしたい。

少人数のグループを分ける際、ミニテストを判断材料としており、また、グループを固定化していないのがよいと思った。

さらに、算数的な表現力を育てるための実践を、算数だけでなくいろんな教科で行っているのが大切だと感じた。

「分かる、できる」は不易の部分である。身の回りの中から算数を活用する力を育て、算数を学ぶ意味に重点が置かれた実践であった。

また、しっかりとした総括を行っていると感じた。